

# 齊藤正次 元所長の勲三等叙勲を祝う

地 質 部  
Geology Department

昭和55年11月3日 秋の叙勲で 齊藤正次元所長が勲三等瑞宝章を授与されました。 誠におめでたいことと心からお祝い申し上げます。 11月10日に勲章伝達式があり 11月11日に皇居参入 天皇に拝謁されたとのことです。 11月17日には地質調査所へ来られ 所長ほかの方々に挨拶をなさいました。

齊藤元所長は 昭和10年東京帝国大学理学部地質学科を卒業され 商工省地質調査所へ入所されたのですが直ちに召集されて軍務につかれました。 昭和15年召集解除後も 外務省 拓務省あるいは海軍省などの依頼によって 東南アジア各地域の金属鉱床などの資源調査に従事されました。

終戦後 商工省地下資源調査所（当時の地質調査所）へ復帰。 昭和23年に地質部図幅課長となられてからは地質調査所の基幹業務である地質図幅調査事業の再建のために献身的な努力をされ 現在の5万分の1地質図幅調査事業の基礎をつくられました。 さらに 20万分の1及び50万分の1地質図編纂の企画・立案・指導をされまた日本の地質全般を総括した300万分の1 200万分の1 500万分の1などの日本地質図を完成させ 英文日本地質産誌の編纂にも参画されました。 このように戦後の多難な時期に地質調査所の基幹業務を再建・確立させ 日本の地質を学術的に総括し 広く海外に紹介するなど 齊藤元所長は大きな貢献をされたのであります。

また 戦後間もなく 空中写真の地質学上への利用を地質学の各分野へ普及させた功勞も忘れることはできま



齊藤正次氏

せん。 そしてその傍ら 鉱床地質学的研究として 日本で初めての群馬鉱山において発見された鉄明鑿石鉱床の生成機構の問題と取り組まれました。 その成果は各界に大きな反響を及し 高く評価されることとなり昭和34年東京大学から理学博士の学位を授与されるに至っております。

昭和32年には地質部長に昇進され 地熱開発 電源開発その他広く応用地質分野に関わられ 先導的な役割を果たしてこられました。 昭和38年地質調査所長に昇任されてからは 深遠な学識経験を生かされ 広く各分野で活躍される機会も多く 関連審議会・委員会の委員として 所の総合的な業績の普及・高揚に大きな役割を果たしてこられました。

昭和40年地質調査所退官後は鹿島建設株式会社顧問として 同社技術研究所に勤務され 早稲田大学教育学部講師をも兼ねておられます。 また東京地学協会理事 日本応用地質学会々長を経て現在は名誉会員として 今なお 学界・業界の両面で御活躍中であります。

擧筆するに当って 改めて齊藤元所長の叙勲をお祝い申し上げますと同時に 御夫妻の御健勝を心からお祈りいたします。



勲 記